

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムV2.7.6(2016) |使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)洲崎ビル新築工事	階数	地上8階
建設地	名古屋市中区栄1丁目31	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年2月27日
敷地面積	748 m ²	作成者	
建築面積	605 m ²	確認日	2023年2月28日
延床面積	4,273 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 81%
③上記+②以外の 81%
④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
西側の日射を遮るために、西面に片側コアを設置した事務所ビル。設備シャフトを利用した換気シャフトを3箇所設置することにより、ウイルス対策を行っている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
3面(北・東・南)から自然換気ができる開口を持ち、直射日光を遮れるようにブラインドを設置することにより、室内空間を向上させている。また、30m/h・人の換気や喫煙所からの煙漏洩対策を施すことで、空気質の清浄性を保つ。	8階を除き、その他のオフィスフロアはスチールパーテーションにすることにより、将来の間仕切り壁の変更が容易にできるよう考慮している。	建物の外周には、可能な限りの植栽帯を設け周辺の街並みに配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱性能の高い外壁・窓を使用することで、外皮性能を向上させ、省エネルギーを図る。	有害物質含有材料種がない。	周囲には、最低限の条件をすべて満たした計画。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)洲崎ビル新築工事

- 使用評価マニュアル:
- 評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル、CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.091827042	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009182704	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045913521	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。